

日本学術会議  
臨床医学委員会 子どもの成育環境分科会（第25期第11回）  
議事録

日時：令和4年6月6日(月) 18:00~19:00

場所：遠隔会議(zoom)

出席者：山中（委員長）、相澤、浅野、伊香賀、大倉、神吉、定行、都築、中坪、三輪、吉野、水口（敬称略）

冒頭に山中分科会長から、本日の議事として、幹事会より承認されたシンポジウム案の説明があった。以下のとおり、それに対する意見・コメントが出された。

- 消費者庁のデータなどは見たことがあり、ヘテロなデータの困難性について言及したい。
- 学校事故に関する研究会に参加したことがあり、子どもの活動量調査をやったことがあり、それを紹介したい。予防という観点からは、環境の問題だけではなく、事故回避能力の低下の問題もあり、それを指摘したい。他の講演者が、住宅・環境の問題にフォーカスした話をすると思いますが、子どもの能力の話をしたい。子供視点の生活デザインのパートの表題は、身体活動増進を介して子どもの事故を減らす学校環境デザインに変更する予定である。
- 川や自然環境の教育を実践した経験がある。安全ではない場所に行く場合の事故予防の取り組みをしたことがあり、その観点での話もしたい。事前学習が大切である点も指摘したい。
- 傷害制御学のような学際的研究の必要性をする予定で、欧米では、学術が進んでいるわけでもないのに、世界に先駆けて提案したいと思っている。唯一、制御がうまくいっているのは交通事故分野ぐらい。高齢者の生活事故も同じ問題がある。
- 総合討論は、山中分科会長と西田副分科会長で行う予定。資料も何かあった方が良いでしょうに思う。
- 子どもから高齢者まで、生まれから高齢まで、発達の視点がある。子どもの特性に関する話はどこかにでてくるのか？
- 子どもから高齢者の観点では、年齢軸整理だけではなく、生活機能軸への整理という視点が重要となる。プレシジョン行動理解のような研究も始まっている。発達への工学的なアプローチも話をする予定である。
- 今後、シンポジウムの宣伝の方法などは、メーリングリストで相談したい。

以上の議論を行い、閉会となった。